

雇用環境改善に取り組んでまいります。

久米島紬の振興については、中核団体である久米島紬事業協同組合が創立50周年の節目を迎え、今後の更なる飛躍が期待されますが、周年事業として取り組んだ施設環境整備や素材確保整備へ支援を行いました。今後についても、久米島紬事業協同組合と連携しながら久米島紬の伝統的な技法を継承する後継者の育成をはじめ、国指定重要無形文化財のブランドの維持を図りつつ、販路拡大・販売促進等の支援を行い、久米島紬の継承・発展に努めてまいります。

(2) 観光産業の振興

観光産業の振興については、「第2次久米島町観光振興基本計画」が2年目を迎えます。計画1年目は、重点項目である「観光意識の醸成」「観光人材育成」「インバウンド対応の強化」や、基本項目である「スポーツツーリズムの推進」「安心・安全な観光地の実現」「地域の観光関連団体の組織づくり・仕組みづくり」等の施策について、推進幹事を中心に実施、着手しました。計画の管理・推進を担う委員会やワーキングにおいて、計画1年目の振り返りや評価・点検・改

の充実に努めてまいります。

教職員の長時間勤務の実態から、これまでの働き方を見直し、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として国や県が推進している「学校における働き方改革」については、「久米島町教職員の働き方改革推進計画」を策定し、夏休み期間中の学校閉庁日やリフレッシュウィークの設定及び校務支援システムの導入等を図り、勤務環境を整え教職員の業務負担の軽減に努めてまいります。

幼稚園については、仲里幼稚園と清水幼稚園の2園の園児の状況等に応じた教諭体制で保育面や安全面のさらなる充実を図ります。また、預かり保育については、仲里幼稚園、清水幼稚園において、これまで通り安全で充実した保育に努めてまいります。

(2) 生涯学習の振興

生涯学習の充実を図るため、ヤングフェスティバルや新春書道展、また各種講座・体験活動事業等を展開し、幼児から高齢者に至るまで町民が生き生きと学習活動ができるよう支援してまいります。

また、昨年より建設中の複合

善を行い、観光振興計画の施策実施による観光産業の振興に努めてまいります。また、観光産業を中核とした地域経営組織として設立に取り組んでいる「久米島版DMO」が候補法人として国から認定を受けました。候補申請に向け組織された「久米島版DMO推進協議会」が実施する事業へ支援を行い、早期の日本版DMOとしての国への登録を目指し、同組織を活用した地域経営、「チーム久米島」による産業振興実現に取り組んでまいります。

(3) 交通の確保

離島を結ぶ航路は、住民や交流人口にとって重要な交通手段であり、物流、観光及び産業活動に欠くことのできない大きな役割を果たしています。

航空路線については利用度の高い交通手段であり、定期路線の維持・確保及びジェット便の増便等、輸送体制の拡充、利便性の向上等について取り組んでまいります。

航路については、昨年7月より新造船が就航し、島民をはじめ利用者への快適性や運行時間の短縮による利便性の向上が図られました。住民や交流人口にとって重要な交通手段として、維

型防災・地域交流拠点施設につ

いては、開館に向け準備を進めてまいります。平時は町民の「学び」の場である図書館や地域交流施設、災害時には避難施設として供用開始します。町民や久米島を訪れる多くの皆様のご期待に応えられるよう施設運営に努めてまいります。

また、最終年度を迎える「久米島町電子図書館」実証事業については、複合型防災・地域交流拠点施設内の図書館と合わせて、町民の皆さまへ読書の機会の提供ができるよう読書環境の整備に努めてまいります。

さらに、交流事業として、新潟県十日町市とのなかさと交流、佐賀市との中学生交流、海外ホームステイ事業を継続実施し、児童・生徒の視野を広めるとともに将来の久米島を担う人材育成に取り組んでまいります。

社会体育については、町民の健康・体力増進を図るため、久米島町体育協会などの関係団体と連携を図りながら町民運動会や水泳教室などの各種体育行事を実施します。また、久米島中体連行事としても実施されている伝統的競技である沖繩角力の保存、継承を図るため沖繩角力協会久米島支部と連携を図って

持・確保に努めてまいります。

また、航空路における交流人口等向け運賃および航路における物流コストの軽減については、事業者との意見交換や要請等により、引き続き取り組んでまいります。

町営バスについては、町民の通学・通勤・買物・通院など重要な生活交通路線であるとともに、島を訪れる観光客等にとっても欠かせない交通手段として重要な役割を担っております。地域環境の変化や利用者ニーズの多様化等も踏まえ、運行形態やダイヤの検証を行っており、バス停環境改善も含め、着実に取り組まながら、安全かつ定時運行に努めてまいります。さらに75歳以上の高齢者および社会復帰のため施設通所する町民を対象に、運賃無料化を継続し、外出支援に取り組んでまいります。

教育・文化の充実

(1) 学校教育の充実

学校教育に求められるのは、変動の激しい21世紀を力強く、逞しく生き抜く「生きる力」を全ての子ども達に育むことにあります。「生きる力」を育むとは、

まいります。

(3) 文化の振興

文化振興については、町民が文化活動に親しめるよう文化協会と連携を図りながら、関連行事の活性化を促し文化活動の充実発展に努めてまいります。

文化財については、災害により一部崩落した宇江城城跡、具志川城跡石垣の積み直しを優先し、整備を進めつつ指定文化財の整備・修復を計画的に行い、学習教材や観光資源としての保存活用を図ります。また、博物館の管理運営においては、収蔵資料の保存管理を始め、企画展、講座、各種教室等の開催により歴史・文化に関する情報の発信にも努めてまいります。

町史編集事業においては、刊行計画のもとに久米島町史資料編1「久米島の戦争記録」の発刊を予定しております。

ホテル館の運営については指定管理に移行する予定で作業を進めています。これまで同様に飼育展示を通してクメジマポータルを取り巻く自然環境への理解を深めるとともに、希少種等の保護調査や児童生徒の環境学習の場として、また観光客に対する自然学習施設としても効果的な利活用を図ってまいります。

「知・徳・体」調和のとれた子ども育成だと考えます。その中でも教育委員会では、本町の教育の大きな課題である「学力の向上」を基軸として、子ども達一人一人に確かな学力を身に付ける取り組みを推進します。

令和2年度から順次完全実施される新学習指導要領では現在の子どもたちが社会人となる令和12年を念頭に置き「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

本町では教育理念を「幼児児童生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む」に島に誇りを持ち、心に夢を持つる幼児児童生徒の育成を掲げ教育に取り組んでまいりました。これまで教師の授業改善に取り組んできた結果、本町の児童生徒の学力は着実に伸びてきました。全国学力・学習状況調査において小学校では教科総合で全国を上回り、中学校でもほぼ全国並の結果を得ました。今後もこの結果を維持できるよう、引き続き授業改善に取り組んでまいります。それに加えて、将来に夢を持ち主体的に学べる児童生徒を育成できるよう各学校の特色を生かした取組を支援してまいります。

(4) 学校給食

学校給食は、教育活動の一環として位置付けられ、バランスの取れた豊かな食事を通して、児童生徒の健康増進、体位の向上及び正しい食習慣を図るとともに食事をすることで相互間の心のふれあい、好ましい人間関係の育成の場として、社会性を養うことなどをねらいとして、取り組んでいるところです。引き続き、学校給食の目的、目標、役割が周知できるよう積極的に食育に取り組んでいくとともに「安心・安全・美味しい給食」の提供に努めてまいります。また、

地産地消の拡大に向けて関係機関と連携を図りながら、地元産の食材を学校給食に活用できるよう取り組んでまいります。現在、老朽化している学校給食センターにつきましては、安全性の高い学校給食を提供できるよう、最新の衛生管理基準に適合した施設整備とするため、移転建て替え事業を推進してまいります。

(5) 久米島高校魅力化

島唯一の高校である久米島高校は人口減少などに伴う定員割れにより、沖繩県教育委員会から園芸科の廢科案が示される

また継続して、基礎学力向上学習支援員を小学校3名、中学校に4名、合計7名配置し、基礎的な学力の定着を図ってまいります。併せて中学校では学習習慣の定着と学習への興味関心を高めることを目的に、放課後自主学習の場「まなびや」を開設し、生徒の意識改善に取り組んでまいります。

さらに、小学校の教科書改訂に伴うデジタル教科書の更新やタブレットなどのICT機器を積極的かつ効果的に活用することなどで学習意欲及び学力の向上を図ります。併せて、学習用情報機器の更新を計画的に実施し、引き続き学力向上に資するICT利用環境の整備を進めてまいります。

教育活動の中では、人、自然、伝統文化など、地域の豊かな教育資源を活用することや、学校・家庭地域・産業界が連携したキャリア教育を推進することにより、久米島の良さを知り、ふるさとに誇りと愛着を持てる子ども達の育成に努めてまいります。

学校施設の整備については、耐震診断結果を踏まえ基準に満たない学校施設の耐震補強計画と併せて学校施設等長寿命化計画を策定して、安全な教育環境など、将来的に高校の存続自体が危惧される状況が続いています。高校の存続問題は町の子育て、人材育成の環境のみならず、人口減少にも拍車がかかり、経済全体に悪影響を及ぼす課題であることから、久米島高校と連携を密にしながら高校魅力化事業を推進してまいります。

現在、魅力化事業の一つとして、島外から留学生を受け入れていますが、離島留学生の受け入れは、地元の生徒も良い刺激を受けており、国公立及び難関私立大学合格を含めて進学率が向上するなどの相乗効果が出ています。その効果をさらに高めるため、じんぶん館内に設置の町営塾「久米島学習センター」を、本年度完成予定の複合型防災・地域交流拠点施設へ移設します。

また、英語でのコミュニケーション能力の向上と国際理解、異文化経験を通してグローバル社会で活躍できる人材を育成することを目的に姉妹提携先のハワイ郡コナワエナ高校と、引き続き交流事業を実施してまいります。